

中小企業者等が試験研究を行った場合の法人税額の特別控除に関する明細書

事業年度	・	・	法人名	
------	---	---	-----	--

別表六七 平二十四・四・一以後終了事業年度分

御注意

資本金の額又は出資金の額が一億円以下の法人でその発行済株式又は出資の総数又は総額の一定割合以上を大規模法人に所有されている法人については、この制度の適用がありませんので、御注意ください。(裏面の「中小企業者の判定」欄に記載して判定してください。)

		繰越税額控除の計算に関する明細			
中小企業者等の試験研究費の税額控除	1	2	3	4	前期超過要件に係る試験研究費の額の計算
					前期繰越税額又は前期税額控除限度額
試験研究費の額	1				試験研究費の額 17
中小企業者等税額控除限度額 (1) × $\frac{12}{100}$	2				当該事業年度の月数 前事業年度の月数又は 前連結事業年度の月数 18
当期の所得に対する法人税の額 (別表一(一)「2」、別表一(二)「2」 又は別表一(三)「2」)	3				改定試験研究費の額 (17) × (18) 19
当期税額基準額 (3) × $\frac{20 \text{又は} 30}{100}$	4				繰越中小企業者等税額控除限度超過額の計算
当期税額控除可能額 (2)と(4)のうち少ない金額	5				事業年度又は連結事業年度 前期繰越税額又は当期税額控除限度額 20
法人税額超過構成額 (別表六(二十)「28の②」)	6				当期控除可能額 21
当期分の特別控除額 (5) - (6)	7				翌期繰越税額(20) - (21) 22
差引当期税額基準額残額 (4)又は(3) × $\frac{30}{100}$ - (5)	8				平 . . . 円
繰越中小企業者等税額控除限度超過額 (20)の計	9				平 . . . 円
平成21年度分繰越中小企業者等 税額控除限度超過額 (23)の計	10				平 . . . 円
平成22年度分繰越中小企業者等 税額控除限度超過額 (26)の計	11				平 . . . 円
計 (9) + (10) + (11)	12				計
同上のうち当期繰越税額控除可能額 (8)と(12)のうち少ない金額 ((17の①) ≤ (19の②)の場合は0)	13				当期分 (2)
法人税額超過構成額 (別表六(二十)「27の②」)	14				合計
当期繰越税額控除額 (13) - (14)	15				事業年度又は連結事業年度 前期繰越税額又は当期税額控除限度額 23
法人税額の特別控除額 (7) + (15)	16				当期控除可能額 24
					翌期繰越税額(23) - (24) 25
					平 . . . 円
					平 . . . 円
					計
					当期分 (2)
					合計
					事業年度又は連結事業年度 前期繰越税額又は当期税額控除限度額 26
					当期控除可能額 27
					翌期繰越税額(26) - (27) 28
					平 . . . 円
					平 . . . 円
					計
					当期分 (2)
					合計

## 別表六（七）の記載の仕方

- 1 この明細書は、青色申告法人が措置法第42条の4第6項又は第7項（中小企業者等が試験研究を行った場合の法人税額の特別控除）（同法第42条の4の2第1項又は第5項（試験研究を行った場合の法人税額の特別控除の特例）の規定により読み替えて適用する場合を含みます。）の規定の適用を受ける場合に記載します。
- 2 「試験研究費の額1」には、当期の所得の金額の計算上損金の額に算入される試験研究費の額を記載します。  
 なお、試験研究費に充てるために他の者（その法人との間に連結完全支配関係がある他の連結法人を含みます。）から支払を受ける金額がある場合には、その支払を受ける金額を控除した金額を記載します。  
 「当期税額基準額」  

$$(3) \times \frac{20 \text{ 又は } 30}{100}$$
 4 は、平成21年4月1日から平成24年3月31日までの間に開始する各事業年度については「20又は」を消し、平成24年4月1日以後に開始する各事業年度については「又は30」を消します。
- 4 「差引当期税額基準額残額」  

$$(4) \text{ 又は } \left[ (3) \times \frac{30}{100} \right] - (5)$$
 8 は、平成24年4月1日から平成25年3月31日までの間に開始する各事業年度において措置法第42条の4の2第8項第3号に規定する平成21年度分繰越中小企業者等税額控除限度超過額又は同項第4号に規定する平成22年度分繰越中小企業者等税額控除限度超過額を有する場合には「(4)又は」を消し、その他の場合には「又は $\left[ (3) \times \frac{30}{100} \right]$ 」を消します。
- 5 「試験研究費の額17」の各欄の記載に当たっては、試験研究費の額に東日本大震災の被災者等に係る国税関係法律の臨時特例に関する法律（以下「震災特例法」といいます。）第17条の5第1項（復興産業集積区域における開発研究用資産の特別償却等）の

- 規定する開発研究用資産に係る償却費の額が含まれている場合には、当該試験研究費の額から東日本大震災の被災者等に係る国税関係法律の臨時特例に関する法律施行令第17条の5第3項（復興産業集積区域における開発研究用資産の特別償却等）に規定する特別償却実施額を控除した金額を記載します。
- 6 「繰越中小企業者等税額控除限度超過額の計算」の「当期分」の各欄、「平成21年度分繰越中小企業者等税額控除限度超過額の計算」の「当期分」の各欄及び「平成22年度分繰越中小企業者等税額控除限度超過額の計算」の「当期分」の各欄の記載に当たっては、次に掲げる事業年度の区分に応じそれぞれ次により記載します。
    - (1) 平成21年4月1日から平成22年3月31日までの間に開始する各事業年度 「平成21年度分繰越中小企業者等税額控除限度超過額の計算」の「当期分」の各欄にのみ記載します。
    - (2) 平成22年4月1日から平成23年3月31日までの間に開始する各事業年度 「平成22年度分繰越中小企業者等税額控除限度超過額の計算」の「当期分」の各欄にのみ記載します。
    - (3) 平成23年4月1日以後に開始する各事業年度 「繰越中小企業者等税額控除限度超過額の計算」の「当期分」の各欄にのみ記載します。
  - 7 「翌期繰越額22」、「翌期繰越額25」及び「翌期繰越額28」の各欄の外書には、措置法第42条の13（法人税の額から控除される特別控除額の特例）（震災特例法第17条の4第1項（法人税の額から控除される特別控除額の特例）又は平成24年改正法附則第23条第2項（法人税の額から控除される特別控除額の特例に関する経過措置）の規定により読み替えて適用する場合を含みます。）の規定の適用を受ける場合に、別表六（二十）の「法人税額超過構成額②」の各欄の金額を記載します。この場合において、「計」及び「合計」の記載に当たっては、当該金額を含めて計算します。

中 小 企 業 者 の 判 定						
発行済株式又は出資の総数又は総額	a		大株	順位	大規模法人名	株式数又は出資金の額
常時使用する従業員の数	b		規模	1	g	
大規模法人の保有株式数等の保有割合	第1順位の株式数又は出資金の額(g)	c	法人等の保有する細		h	
	保有割合 $\frac{(c)}{(a)}$	d			i	
	大規模法人合計の株式数又は出資金の額(k)	e			j	
	保有割合 $\frac{(e)}{(a)}$	f			k	
					計	
					$(g)+(h)+(i)+(j)$	
この表の各欄は、期末の現況により記載するほか、次によります。						
1 「保有割合d」が50%以上となる場合又は「保有割合f」が3分の2（66.666…%）以上となる場合には、この法人税額の特別控除の規定の適用はありませんから注意してください。						
2 「大規模法人の保有する株式数等の明細g～k」の各欄は、その法人の株主等のうち大規模法人（資本金の額若しくは出資金の額が1億円を超える法人又は資本若しくは出資を有しない法人のうち常時使用する従業員の数が千人を超える法人をいい、中小企業投資育成株式会社を除きます。）について、その所有する株式数又は出資金の額の最も多いものから順次記載します。						